

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078000108		
法人名	医療法人十連病院		
事業所名	グループホームじゅうれん		
所在地	福岡県久留米市三潴町西牟田6557-89 (電話) 0942-65-1555		
自己評価作成日	平成 24 年 12 月 25 日	評価結果確定日	平成 25 年 3 月 8 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、公園の一角にあります。リビングから見える十連公園の景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっている所でもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き四季折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までもこれからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切に取り組んでいます。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心できます。職員も母体の内部研修、又外部研修にも参加しスキルアップに努めています。住まいは、変わっても住み慣れた地域で暮らすことを大切に地域に根差したホームを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 1 月 17 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、緑豊かな自然に囲まれており、時折鳴く鳥の声や四季を感じ取れる環境である。ホーム周囲には池やイベント広場があり、地域の方の寄り所になっている。春には黒松祭りがあり、多くの方が訪れにぎわい、利用者の楽しみの一つとなっている。室内は天窓からの外光が射し込み温かみ溢れて、壁には程よく作品が飾られており、過ごしやすく工夫が感じとれる。代表者はこれからの利用者の生活で何が必要かとの思いを馳せ、平成16年4月に開設した。日頃の健康管理や併設の十連病院が医療面の主な役割を担い、家族からの絶大な信頼を得ている。また高齢者の尊厳、これまで親しんできた生活の継続を大切にしながら、個々の利用者の日常の支援を、職員が一丸となって心をこめて行っている。地域との交流の円滑化に気を配り、より密着した良好な関係を保てるように努めている。職員が働きやすい現場であり、幅広い年齢層を雇用している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも見える場所に理念を掲示し朝礼の際にみんなで復唱し確認を行っている。	「地域のみなさんとあるがままの暮らしを」を理念に掲げ、職員は朝礼時やミーティングの際に理念を唱和している。地元の利用者が多数おり、本人達の不安や心配などを解消できる事業所となっている。また、ケアプランを作成する際も職員同士で話し合っって理念を踏まえた計画を立てている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会と交流を持ち敬老会、清掃、定期的にボランティアとして来て頂いている。	自治会に加入し、月1回（第1日曜）地元の清掃活動に参加している。地域での催しは黒松祭り（春開催）や敬老会、誕生会へ参加しており、関係を築いている。事業所主催では地域の方へ参加を呼びかけ、運動会に来てもらっている。保育園との交流が毎月あり、小中学生の職場体験の受け入れ先となっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に相談に応じたり、勉強会を行っている、地域の方にも参加頂いている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時にて、地域の方、家族へ活動報告を行い改善点を話し合いサービスの向上にへ生かしている。	2ヶ月に1回開催しており利用者、家族を中心に地域の代表の方が多数参加している。行政職員や地域包括職員へは働きかけをしているが、日程が合わず不参加となっている。事業所のサービスの現状を報告し話し合い、サービスの向上に繋げている。家族からは日々の活動が鑑賞できるスライドショーが楽しみと上々の評価をもらっている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括センターや市職員に運営推進会議へ参加してもらい情報交換を行い協力関係を築いている。	日頃から行政窓口へ行き、相談を行いサービスの質の向上に役立っている。久留米市には独自の災害対策があるので、事業所へ出前研修を依頼するなど、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各人の居室は、自由に出入りが出来ベット臥床、起床時に必要な支持棒以外使用していない。玄関は、近くに池があるので安全の為に自動ドアを利用している。	玄関はスイッチ式の自動ドアで、随時、出入りが可能であるが、センサーも付いているので二重確認できるよう整備されている。利用者が外に出る際は必ず一人付き添い対応している。職員は研修を受けて身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	代表職員が研修へ参加しその内容を施設内で申し送り共有することで虐待防止へ努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修・内部研修により一人ひとりが制度について理解し説明できるように努力している。	権利擁護や成年後見制度に関して入居時に家族へ説明を行っている。職員は研修を受けて制度の理解を深めている。参加できなかった職員へは伝達研修を行い、周知させている。また、必要時に備えてパンフレットを置き、運営推進会議で再度、家族への説明の機会を設けている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得されるように重要事項、契約内容を書面にて説明させていただき又自宅へ一度持って帰っていただき十分納得の上締結するようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催しアンケートを取りその内容を運営に反映させている。	ユニット別に朝の挨拶の際、利用者へ「今日は何がしたいですか」と尋ねる様にしている。日々の生活の中で職員は利用者から思いや考えを引き出すように、努めて傾聴する姿勢を見せている。家族会は年2回開催し、色々な意見を出してもらう様に働きかけている。毎月、家族へお便りを送付している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会時に職員全体で話し合い反映を行っている。	自己評価の取組をユニット別で行い、業務意識を高めている。互いに意見を出し合える関係を作り、職務にあっている。職員は出来る限り利用者との関わる時間を多く持ちたいと試行錯誤している。産休や年休が取りやすい様に職員同士がカバーできる体制が整備されている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを感じ長く勤務できるよう環境整備に努めている。結婚、出産、職場復帰できるよう職場環境を整え働きやすい環境づくりに努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては、制限は、行っていない。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境づくりを行っている。職員の得意分野が、発揮でき生き活きと勤務できるよう支援している。</p>	<p>職員の募集にあたり、性別や年齢を理由に採用対象から外される事がない様になっている。また、現職員は在籍歴が長い人が多く、勤めやすい職場となっている。20代から70代と職員の年齢層も幅広く雇用し、互いに視点や考えが異なり刺激になっている。法人内の異動や昇進も可能で経験を積む為の環境がある。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権研修に職員全体で参加し人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権教育に関しては年1回の法人全体の研修として、外部からの講師を招き、講師持参のテキストを使った1時間程の研修をほぼ全員が受講している。また、伝達研修を行っている。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外の研修と共に毎月のグループホームの勉強会で技術や知識を身につけている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>久留米市の事業者協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。交流の深い同業者もありお互いに訪問したり相談したりサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の希望や不安などを把握しサービスに生かしていくことで関係づくりに生かしている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の話聞き、希望、要望を知り、サービスに生かしていくことで関係づくりに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いをきちんとすることで、ご本人や家族が一番困っている事、必要としている事を見極め対応支援させていただくよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ得意な分野で手伝ってもらったり共に支え合うという関係づくりをしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	信頼されることにより、本人、家族の理解が深まり支援の方向性が出来ている。家族や本人の気持ちに寄り添いながら対応している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣を尊重している。住み慣れた地域で一緒に買い物に出掛けたり散歩に行ったり又ご家族の協力もあり住み慣れた自宅への外出を援助しています。	職員は利用者の思い出の場所や馴染みの店などの情報を把握し、活動力を高める様に考えて支援している。入居時のアセスメント以外でも、随時情報を引き出していき、家族からや職員間での申し送り等で情報の共有を図っている。事業所の近くにお住まいの方については時々同行して帰宅する、といった支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し職員で共有できるように支援しています。日常の様子を観察し必要に応じて席の場所も決めています。利用者同士が楽しく過ごせるように職員が調整役となって支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に行かれてもそこでの生活状況を見に行ったり電話で状態を聞いたりしている。いつでもご相談下さいと声掛けを行っている。現在でも、関係が続いて相談に来られる家族もある。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を導入しどのように暮らすことが最良であるか、日々の関わりの中で利用者の希望や思いを把握し馴染みのくらしが出来るように努めている。	センター方式を用い、言葉や思いを伝えづらい方達の表情や行動を観察し、関わりを密にしている。全職員で情報の共有に努め、利用者一人ひとりに目を配り支援している。職員は担当を持つ事で利用者より良い関係を築いている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問し居室を見せて頂く。1回では、無理であるため数回の訪問、面談を重ねて暮らした経験や馴染みの暮らし方を把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の体調や状況に応じて個別対応を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を導入し、利用者の聞き取りや観察を十分に行い、日々の記録や職員全体の意見を出し合ってカンファレンスを行っている。また利用者の自宅を訪問したり家族が訪問したときに面談し介護計画を立てている。	6ヶ月に1回、見直しを行い計画書を作成している。利用者の意向の確認を行い、担当職員、看護職員、ケアマネジャーを中心に話し合いをしている。家族への報告は電話連絡や面会時に計画内容の説明を行い、署名・捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入している。介護計画の見直しの材料としている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援を行ったり買い物や外出など柔軟な対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの方々が訪れ交流している。又近所の保育園児との交流・中学校の職場体験なども受け入れている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療が受けられるよう往診体制の出来る医療機関と事業所の関係づくりが出来ている。特に家族へ情報を提供し支援を行っている。	かかりつけ医は、本人・家族の意向や、これまでの経緯により決めている。通院は基本的に家族が同行する。訪問診療の場合や、やむを得ず職員がお連れする場合もあるが、そのような場合の情報伝達の方法については予め家族と話し合っており、職員は家族へもれないよう報告し、適切な医療を受けられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も安心して治療が出来るよう協力病院であるSW・看護師との関係づくりを行っている。経過や情報を得ている。早期に退院できるよう働きかけを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期支援を行っている。家族・主治医・看護師・介護担当者会議を行い、利用者の状況に応じて対応方針の共有を図りながら支援を行う。併設病院と訪問看護との協力体制にある。	重度化・終末期のあり方についての事業所の対応方針があり、明文化している。利用開始時に事業所で出来る事を説明の上、同意書に署名・捺印をもらっている。また、状況に応じて本人や家族、かかりつけ医、職員で話し合い改めて合意を図り、全員で方針を共有した上で支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での研修やグループホーム勉強会時に心肺蘇生法やA D Eの使用法等定期的に学ぶ機会を設け実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震・水害時の想定したマニュアルがある。また年2回の火災を想定した訓練を実施している。法人又グループホームにおいても非常食・オムツ・ペーパー類の備蓄も整えている。	年2回の避難訓練は消防署や設備業者の協力を得て、マニュアルに基づいて行い、避難経路の確認や消火器の使い方などについても徹底している。訓練には地域住民の参加もある。非常用の備え（おむつやトイレトイレットペーパー、水、非常食、菓子等）を事業所に確保、職員も把握し、随時期日管理やチェックを行っている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり常に尊敬の念を持って利用者様の誇りを大切に言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに十分留意し家族の了解を得る取り決めのもと行っている。	個人情報の遵守（職員は入職時に念書に署名）やプライバシーの配慮と損なわない対応について、管理者も随時声かけや指摘を行っている。職員もトイレ介助の際はさりげなくお連れする、戸の開閉やポータブルトイレ使用時のカーテンの使用などに注意し、お互いに声を掛け合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やさしく解かり易く話しかけることによって本人が思いを伝えやすいよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・散歩・日中の過ごし方などその人の体調や状況に応じて対応を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの衣類など持ってきて頂きその中からその人らしいおしゃれの支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った食事づくりを心がけ匂い・音を感じて頂いている。できる方には片づけも手伝って頂いている。	利用者と職員は、同じ食事を同じテーブルで一緒に摂っている。職員が利用者の要望や嗜好に合わせて献立も作り、準備や片付けは利用者も一緒に行う。バイキング、誕生会のお祝いのリクエスト、鍋、サンドイッチの盛り合わせ等の他、近隣住民の方から届いた野菜などをふんだんに使うなど、食事が楽しくなる工夫を行っている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は毎回チェック個人日誌に記載し摂取量の把握を行っている。水分摂取が少ない方には、本人の好みに合わせたものを提供している。食事については本人の摂取状態に応じた量の提供を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへ誘導、歯磨き実施の促しを行っている。一人で実施困難な方には、スタッフが付き添いなるべく本人の力で行えるよう介助を行っている。義歯調整が必要な方は、訪問歯科へ依頼し調整を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め時間を見てトイレの声掛けを行っている。利用者のちょっとした変化を見逃さないよう介助を行っている。パットやおむつについての勉強会にて快適な排泄について学んでいる。	排泄はできるだけトイレで行い、車いす対応の利用者にもトイレ排泄を支援している。トイレ誘導は排泄パターン表を見ながら行っている。おむつ等の軽いものへの移行や、交換回数を少なくする等の対応に意識的に取り組んでおり、支援が上手くいき家族からも喜ばれているケースが多い。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きちんとした食事や水分を取ること、適度な運動をすること・その人その人に合わせた時間帯にトイレに座ること等にも努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	限られた時間であるが本人のタイミングに合わせて又合わせた風呂の提供を行い楽しむことができるよう支援を行っている。	やや広めの家庭的な浴槽に一人ずつ入浴ができ、毎日の入浴が可能である。入浴を拒否する利用者に対しては、無理強いはしないようにして、個別に声かけをして対応している。薔薇・菖蒲・ゆずや入浴剤、アロマオイルを入れた日を設けたり、職員と話をしたり歌を歌ったりする等、個々の意向に沿った入浴を支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力に合わせ居室で休息したりソファや和室でも自由に横になって休めるよう配慮している。夜間の消灯時間も決めておらず一人ひとりのサイクルに合わせて就寝時間も異なりテレビを見たりスタッフと話をしたり自由に過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服用されている薬は、いつでも確認できるようファイル等に挟んでいる。薬の副作用等注意が必要な点があれば、その都度申し送り情報共有を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常において自分の得意とする分野、出来る事をする事で役割を持ち生きがいを感じられるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しめるよう外出を行っている。（バスハイクや外食等）家族の方の協力で外出も行っている。	天気、利用者の体調や希望に応じて、利用者一人ひとりに支援をしている。近くの公園の散歩・散歩にはほぼ毎日行くほか、回転寿司や足湯、ファストフードの店などに気軽に行ったり、職員の食材の買出しに同行したりもする。月1～2回、外食や家族協力のもと外食を兼ねた季節の花見などの遠出もする。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持ちたいと希望される方は、居室にて自己管理をして頂いている。バスハイクや外食時には、自分で支払いをしたり、買い物の希望があれば個別対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけてもらい遠方でなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状や暑中見舞い、お便りを送り近況報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、必ず季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り常に季節感を感じられるように配慮している。	共用空間は臭いもなく清潔に保たれている。絵馬や干支の貼り絵などの作品や習字などが展示され、利用者の生けた花も飾られており、季節を感じる事も出来る。和室でゆったり過ごす事ができ、また強い日差しは職員がカーテンで調節したりと、利用者が居心地良く過ごせるようにとの配慮がなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに（廊下やホール等）にソファや椅子を置き、他者と距離を保ったり一緒に過ごせるような工夫を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくお部屋には自宅で使いなれたものを持ってきていただき過ごしやすい空間づくりを行っている。家族の写真を飾るなどの工夫を行っている。	居室には利用者が大切にしてきた椅子やソファ、テーブルなどが持ち込まれており、写真や趣味の作品、好みの品々を飾っている居室も見られる。遺影を持ち込んでいる方もおられる。ベッド・棚・エアコン・空気清浄器は備え付けだが、利用者の個性と居心地の良さが十分に感じられる居室になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示等場所の把握が出来るように工夫を行っている。居室においても車いすが動けるような家具の配置を行い工夫を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は、地域の皆様とあるがままの暮らしをという介護理念のもと職員間で日々振り返り意識しながら実践に向け努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し掃除や祭り又敬老会に招待いただいたり、運営推進会議にも地域の自治会長や民生委員、尚寿会、介護相談委員等も参加頂き交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会等に参加し認知症予防についての話や血圧測定健康管理についての話等行っている。学生の実習やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、尚寿会、介護相談委員、包括支援センター職員、行政職員を交え委員を務めてもらい事業所の活動状況や日々の様子をスライドショーなど見てもらいアドバイスやご意見をいただきながらサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への依頼や法人内の勉強会等久留米市の災害対策に対する研修依頼を行ったり解からないときには、気軽に相談している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み、外部研修に参加し、身体拘束についても勉強会を開催、職員に意識付けしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し又委員会も作り勉強会を開催、日々虐待の防止の意識付けを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に日常生活自立支援事業を利用されている方もあり関係機関の方とも交流があり勉強させていただいた経緯もある。施設内にパンフレットを用意したり運営推進会議においても説明したりしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては、ご家族の希望も伺い本人も同行で見学や遊びに来て納得して頂いている。入居時には、重要事項、契約書、医療連携についても説明し同意を戴いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見や要望が得られるように働きかけている。日頃の様子毎月の便りや家族会時には、スライドショーを行い日々の生活の様子を見て頂き意見をいただいている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会、日々のミーティングで気づきや意見を出し合い自由に検討出来る環境づくりを行っている。現場職員の意見や提案は、大事にしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほとんどの職員が資格（介護福祉士）を取ったり研修に行きたいと向上心を持っている。結婚・出産後も働けるよう職場環境を整え働きやすい環境づくりに努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は、行っていない。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境づくりを行っている。職員の得意分野が、発揮でき生き活きと勤務できるよう支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人において毎年外部からの講師を招き人権学習の研修が開催され意識付けが行われている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等必要に応じ参加を促している。働きながら資格を取れるように又研修が受けられるように機会を作っている。ほとんどの職員が資格(介護福祉士)保持者である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。交流の深い同業者もありお互いに訪問したり相談したりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の意向を確認し詳細に情報収集を行い安心出来る環境を作っている。又二人だけの時間を作り個別対応をし、本人の想いをしっかり聞いてあげる事で馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が希望されている理由や困っている事等しっかりと面談の機会を作り話を聞くことで安心して任せてもらえるように努めている。スタッフ全員で共有しお互い情報交換しながら対応方法等もご家族と話し合い信頼関係を作っている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、グループホームは、勿論各サービスの説明を行っている。必要に応じたの施設も紹介するようにしている。又他グループホームへの見学も勧めることもある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活しているという基本を大事にできない部分を手伝うようにしている。得意分野は、腕を振るって頂いたり教えて頂いたり共に支え合う、一緒に生活しているという関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回のホーム便りを通し生活状況を伝えている。面会時には、日頃の様子をお伝えしている。家族と共に楽しめるようにプチ運動会を開催したり日頃の状況をスライドショーで見せたりご家族で楽しい一時を過ごせるように、家族との絆を絶やさないように支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に応じ、自宅に電話したり自宅まで外出したりして入居前の馴染みの場所まで出かけたりしている。一人暮らしの方は、ご家族の了解のもと自宅の鍵を持っている為、自宅に帰り品物を持って来たり特に入居している感覚がない方もあり今後も大事にしてあげたい。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、職員も一緒にお茶を飲んだり、皆が穏やかな日々が過ごせるように支援している。中には、お部屋を訪問しお茶を飲んだり一緒に過ごしたりされている方もある。お互いに助け合われる光景も目にする時もあり温かく見守っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や他施設に行かれてもそこでの生活状況を見に行ったり電話で状態を聞いたりしている。いつでもご相談下さいと声掛けを行っている。現在でも、関係が続いて相談に来られる家族もある。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご家族から希望や意向をお聞きご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意思を伝えられない方は、表情や動作等で把握しご家族と相談しながら本人の想いを尊重し対応している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族から生活歴等の情報をいただき、日々の生活の中から確認しながら生活支援を行っている。知人、親類等面会時に情報を得られるように声掛けを行いお話をさせていただいている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は、個人記録、申し送りノート等で全職員が共有できるようにしている。生活の質の向上を目指しているため日々の変化の記録を大切にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大事に本人ご家族の要望を聞き職員、他職種と検討し意向が反映された介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に1日の生活状況が記録されている為日々の変化がカンファレンス、モニタリングに生かされより良いケアが出来るように活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向・状況に応じ対応を行っている。医療法人併設の為医療連携も万全でありご希望により看取りまでの生活支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長、民生委員、保育園など日々の生活で交流があり気軽に声かけて頂いている。又入居前の担当の民生委員さんの訪問もあつたりと安心できる暮らしが送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診、受診を行っている。ご家族、ご本人の希望により対応している。状況により状態説明をお願いし今後の方向性について選択できるように支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行い安心して治療入院が出来るように支援している。又入院時には、訪問し情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く、家族や馴染みのスタッフの中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院・訪問看護ステーションとの協力体制も確立している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での研修やグループホーム勉強会時に心肺蘇生法やA D Eの使用法等定期的に学ぶ機会を設け実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震・水害時の想定したマニュアルがある。また年2回の火災を想定した訓練を実施している。法人又グループホームにおいても非常食・オムツ・ペーパー類の備蓄も整えている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し生活歴を踏まえ自尊心を傷つけない対応・声掛けを行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし本音や希望を言える雰囲気を作ること又安心してスタッフにわがままを言えるような関係づくりに努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず本人に意志決定してもらうように心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日今日は、何がしたいかを尋ね、なるべく一人ひとりの希望に沿い対応している。散歩やドライブ、歌や体操したい等の意見が出ている。食事や入浴・就寝の時間も本人のペースに合わせて対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切に、毎日欠かさず化粧を続けている方もいる。自分でできなくなった方も家族の思いを大切にスタッフに化粧をしてさし上げている。外出や誕生日等特別な日には、おしゃれをしたり着物を着られる方もいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食事による満足度等定期的にアンケートを取りそれを元に食事内容やメニューを検討している。入居者様と一緒に野菜の皮むきや下ごしらえ、盛り付け、食器洗い等を行い、作る楽しみを感じられるようにしている。入居者様の希望に沿い外食も取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた量や病状による食事量・味付け等細やかに対応している。食事・水分摂取量の把握に努め、入りが悪い時は、口に合う別メニューを用意したり飲み物を常時種類を用意し摂取量を確保している。嚥下力低下している方には、ミキサー食・とろみで対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、一人ひとりに合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は、外して磨くよう声掛けしたり汚れが落ちているかチェックを行い上手にできない方は、最後に仕上げを行い清潔保持をしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握したり本人のサインを見逃さないようトイレ誘導を行うことで失敗やパットの使用を減らせるよう努力している。安全を考慮しながら2人介助を行ったり、P-トイレを使用している方もいるが、なるべく最後までおむつ着用を避けてトイレでの排泄を促している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食物を取り入れたり、水分量の確保、適度な運動を心がげ便秘予防に努めている。毎日の排便状態のチェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	現在は、毎日入浴したいという希望がない為一日おきに入浴しているが、その日以外でも希望があれば又汚染時に等は、臨機応変に対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力に合わせて居室で休息したりソファや和室でも自由に横になって休めるよう配慮している。夜間の消灯時間も決めておらず一人ひとりのサイクルに合わせて就寝時間も異なりテレビを見たりスタッフと話をしたり自由に過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に薬情を入れ薬をセッティングする時毎回確認を行っている。又業務に薬の変更や臨時薬の処方、処置内容等記載し情報の共有を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や嗜好品、ニーズ等を聴取し一人ひとりの役割を持ち生きがいのある生活を送れるように努めている。女性利用者が多く長年の主婦業を活かし家事仕事を一緒に行いながら生活感を感じられるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日午前中のレクレーション時に今日は、何をしたいかを尋ねその希望になるべく沿って対応できるように努めている。自宅に帰りたいという希望時には、家族にも協力を得られるように相談したり住み慣れた地域への買い物に出て昔馴染みの人と会うことを楽しみにしている方もいる。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持ちたいと希望される方は、居室にて自己管理をして戴いている。バスハイクや外食時には、自分で支払をしたり、買い物の希望があれば個別にて対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけてもらい遠方でなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状や暑中見舞い、お便りを送り近況報告を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、必ず季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り常に季節感を感じられるように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、こたつを設置し自由に入ったり横になれるような空間を作り、仲良しの入居者様同士ゆっくり会話したり独りでのんびりとテレビや新聞を読めるようなソファの設置、またテラスにもテーブルやいすを設置しいつでも利用出来るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ち込んで頂いたり、家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせるように配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面がバリアフリーとなっており、廊下には、手すりを設置したり、車いす自走も安全に行えるよう十分なスペースも確保している。トイレには、大きくプレートを付ける等できるだけ自立した生活が送れるように配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない